

第13回御所市学校規模適正化推進会議  
議事要旨

日時 平成27年7月31日（金） 19時00分～21時00分  
場所 市役所本館3階 第1会議室  
出席者 委員：田仲会長、辻内委員、有家委員、木下委員、田仲委員、津田委員、  
齋藤委員、井上委員、川田委員、向手委員、細川委員、北谷委員、  
野阪委員（欠席は山本委員、岸田委員）  
事務局：安井、安川、高田、高橋、森田

内容

開会

○田仲会長が挨拶を行った。

確認事項

○第12回御所市学校規模適正化推進会議議事録について  
議事録の確認を行い、承認された。

○第11回御所市学校規模適正化推進会議議事要旨について  
議事要旨の確認を行い、承認された。

○学校規模適正化の推進ビジョン案について  
前回の修正意見を反映した案を示し、承認された。

議事

○将来の学校像の検討について

前回の魅力ある学校づくりのテーマと視点を変え、今回は小中一貫校の導入を想定した事例案から、御所市における小中一貫教育について意見協議を行った。

主な意見は次のとおり。

- ・1小1中1小中一貫校は分け方が難しい。
- ・1小1中にするにはすごいエネルギーがいる。それを小中一貫校にすれば別のエネルギーもある。一貫校を別につくるならば、既存の小中一貫校を活かす案もある。
- ・1小1中1小中一貫校は財政的にできるのか。小学校、中学校を隣接して新設すれば、一貫校でも、1小1中でも考えられる。バスターミナルも一つでいい。財政的に土地が安い、災害が少ない、市民の避難場所にできる所がいい。
- ・1小1中でも学校が近くにあれば連携はとりやすい。いきなり一貫校になると現場は大混乱になる。市外からの教員も入りにくい。小中連携の素地をつくって、一貫校に進めば良い。
- ・一貫校にしなくても1小1中でも連携はできるが、小中一貫校を9年で考えるとカリキュラムに余裕ができるし、縦割りのいろんな活動ができる。
- ・最終的には小中一貫校1校が良い。
- ・学校選択制で選ぶのではなく、すべての子どもたちが1点を目指し、市全体を

- 一つの校区として1校を目指す方が良い。
- ・無理に小中一貫教育をしなくても1小1中の連携で良い。小学校にも中学校にもメリットはある。
  - ・小中一貫校1つなら選択はない。
  - ・学校現場が混乱するとの話があったが、これだけの教育改革なので魅力ある学校1校とし、小中一貫校をやっても良いと思う。
  - ・(一貫校1校は)1,100人の学校になる。県は1,000人以上の学校を解消しようとしていた。小中の1,000人は大変だと思う。
  - ・小中一貫校なら1,000人でも校長は1人。教頭、副校長等のシステムをしっかりしないと運営できない。
  - ・人的、物的環境を一遍にするのは大変だ。物的環境を打ち出すなら、1小1中1小中一貫校もありきだ。学校選択制も親が勉強して選んで良いのではないか。
  - ・1小1中は連携をとっていける。教員の連携なら一貫校でなくても1小1中できる。子どものふれあいなら小中一貫校が良い。しかし、一貫校1校となると御所に入ってくる教員が大変だ。
  - ・どの時期にするのか。中学校は人が減るので、中学校が先だという意見が前にあった。小中一貫か、小中連携かの違いは、どんな建物にするのかだ。小学校の良さ、中学校の良さを生かしながら、教員の連携を図るならば、1小1中で良い。
  - ・我々は財政問題、教員の配置は考えないでおきましょう。それを考えていたら目指す教育を考えられない。推進ビジョン案に書かれたような学校を目指すべきだ。
  - ・1小1中にすれば、小中一貫にする意味はないと思う。小中間の連携ができれば、中1ギャップもないと思う。(小中の)転換期もいるかと思う。学年区切りとかいろいろあるので、今の段階でどちらが良いとは言いにくい。

#### ○魅力ある学校づくりの検討について

事務局から学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の検討資料を説明し、御所市全体で支える学校づくりの視点から、コミュニティ・スクールについて意見協議を行った。

主な意見は次のとおり。

- ・1小1中という形になるなら、どれだけ学校支援の体制を地域が作れるのか、大人たちが行動できるのかだ。
- ・国資料を見ると、コミュニティ・スクールの導入は市教委がやりにくくなるのではないか。
- ・コミュニティ・スクールの先進地、オーストラリア、ニュージーランドでは「私たちが選んだ先生です。校長です。学校運営上、必要なものは学校と共に考えます。」と話していた。日本では難しさもあるが、先進地ではされている。
- ・日本も昔はそうだった。おらが村の学校だった。学校が硬直化していて、先生のブロックもあると聞く。保護者側も遠慮せずにものを言うことも必要だ。もっと学校に対して積極的に貢献する上で、御所でどう活用するかを考えたら良いと思う。
- ・1小1中にするなら、教委がしっかりしないとダメだ。今の中学校区であれば

コミュニティ・スクールは活かせるが、1小1中になると、地域の声や船頭を多くして大変になる。

- ・制度的にコミュニティ・スクール、地域を巻き込むスタイルはありだ。
- ・教育委員会制度が変わったのは大きい。エリアが大きくなると、融合していかないといけない。オープンマインドでやれるかが勝負だ。
- ・(コミュニティ・スクールを導入すると)校長が中間管理職になるのではないか。
- ・学校応援団的なものになると思うが、中途半端には関わらなければ意味がない。
- ・上手く機能すれば面白い仕組みになる。
- ・コーディネーター等の人材の確保が鍵だ。
- ・私たちが選んだ教員や校長と言えるようになれば良いが、大変難しい。
- ・地域の人から、「学校を盛り上げるのは地域だ」と聞いた。
- ・地域や一般社会人の論理が学校に入っていくと学校が面白くなる。
- ・地域の考えを何もかも受けていたら学校教育はうまくいかない。
- ・地域のつながり、盛り上がりで、学校をつくっていくことが大事だ。
- ・地域を一つにまとめるのは教育委員会だけではしんどい。御所市一つとすれば最初は大変厳しい。最初の出発点をどうしていくのか、考えないといけない。
- ・「オール御所」の考え方は教育の話だけではなく、地域の話、地域で学校を支えていくというのでも考えていく。コミュニティ・スクールは不可欠だ。制度そのままでも御所市全体で学校を支える枠組みを作る。
- ・御所という地域に合うようにしていかないといけない。
- ・国はコミュニティ・スクールを推進している。
- ・学校ができるまでにコミュニティ・スクールに近い形ができないと、統廃合もできないと思う。(学校を) つくる段階でオール御所でいく。一つの学校にと統廃合していくなら、コミュニティ・スクールは必要になる。
- ・統廃合を地域住民としっかり話をするべきだ。それをしないで、コミュニティ・スクールは進まない。
- ・保護者だから提案できることもある。学校をサポートできる部分がある。
- ・保護者、地域への統廃合を説明した上で、代表を選んで基盤をつくり、地域や保護者も意見を出し合えるコミュニティ・スクールができた方が良い。子どもたちのために学校運営に積極的に関わってもらって良い。人選は教育委員会、準備段階も大変だと思うが、一大事業なので必要だ。
- ・1小1中の方向を市民に説明するならコミュニティ・スクールに関するような意見が出てくると思うので、社会の考え方が多様化し、御所の子どもたちをよくするのなら、コミュニティ・スクールは決して悪い話ではない。コミュニティ・スクールの内容を行政は市民に広報、啓発してもらいたい。

## その他

### ○次回の会議について

次回は会議は、8月28日(金)午後7時～、市役所で開催する。

## 閉会